

# 国際通商交渉の理論とシミュレーション

## —パットナム命題の検討—

神戸大学大学院経済学研究科 石黒 馨

報告では、2レベルゲームの枠組みによって国際通商交渉のモデルを構成し、理論とシミュレーションの分析によってパットナム命題について検討する。この報告の特徴は、国際通商交渉のモデルの構成において、日本の国内交渉を特徴づける官僚制多元主義の役割を明示的に考慮している点にある。

国際関係における2レベルゲームのアプローチは、Putnam (1988)によって提起され、その後 Evans et al. (1993)によって国際政治や国際政治経済の多様な領域に適用可能であることが示された。このようなアプローチによる国際通商交渉に関する文献には、Milner (1997), Milner and Rosendorff (1997), Mansfield et al. (2000, 2002), Dai (2002)などがある。

Putnam (1988)は、2レベルゲーム分析の重要な結論としてつぎの点を示している。「ウインセットが大きいほど、合意の可能性は大きくなる」。「ウインセットが小さいほど、交渉の利益は大きくなる」。報告では、パットナムの2つの結論をつぎのようなパットナム命題として検討する。パットナム命題：「ウインセットが小さいほど、合意の可能性は小さくなるが、交渉の利益は大きくなる」、あるいは「ウインセットが変化しない場合には、合意の可能性や交渉の利益は変化しない」。

このパットナム命題に関して、1) 保護主義的な政治的圧力の増大と、2) 内向きの官僚部局の交渉力の増大という、ウインセットに影響を及ぼすと考えられる2つの場合について検討する。報告の主要な結論はつぎのとおりである。

第1に、保護主義的な政治的圧力が増大する場合には、シミュレーション分析はパットナム命題を支持しているが、理論分析は部分的にしか支持していない。

▼理論分析はパットナム命題を部分的に支持しているにすぎない。官僚部局間の選好が十分に近似している場合には、交渉の利益は大きくなる。しかし、両者の選好の乖離が十分に大きくなると、交渉の利益が増大するとは限らない。

▼シミュレーション分析はパットナム命題を支持している。保護主義的な政治的圧力が増大すると、合意の可能性は低下する。交渉代表者と内向きの官僚部局の利益は、単調な増加傾向を示している。

第2に、内向きの官僚部局の交渉力が増大する場合には、理論分析はパットナム命題を支持していないが、シミュレーション分析は部分的に支持している。

▼理論分析はパットナム命題を支持していない。内向きの官僚部局の交渉力が変化するとき、交渉代表者の理想点が変わるので、通商交渉の結果が変化し、交渉代表者と内向きの官僚部局の利益も変化する。

▼シミュレーション分析はパットナム命題を部分的に支持している。内向きの官僚部局の交渉力が上昇するとき、合意の可能性は影響を受けない。内向きの官僚部局の利益は変化しないが、交渉代表者の利益は増大する。